

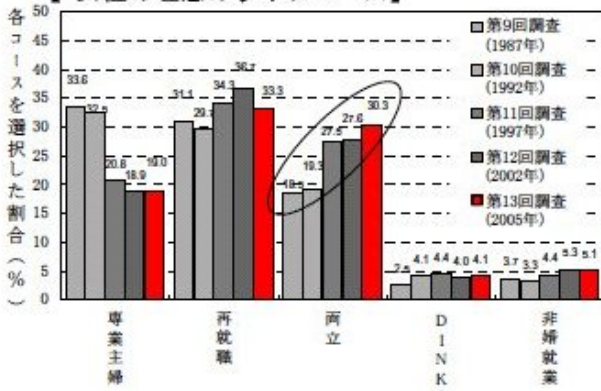
Hello! FUJISEI

No.81

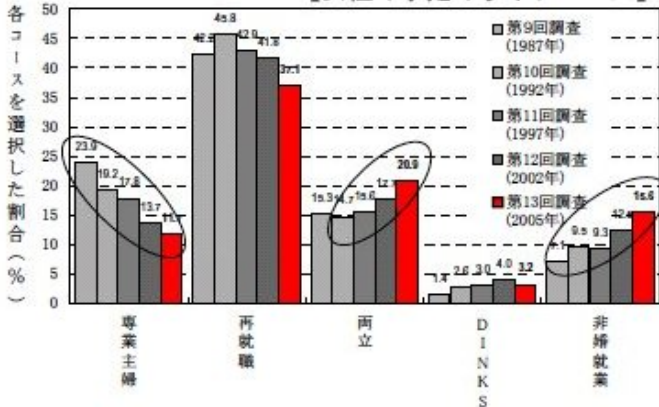
少子化の背景には、1980年代から働く女性の増大、とくに若い世代の女性の労働力率が上昇してきた一方で、仕事と子育てを両立できる環境が十分整っていなかったことが晩婚化や晩産化につながり、その過程で出生率の動向に影響を与えてきたと推測でき、また、男女双方の高学歴化も晩婚化に影響を与えているとさ

未婚女性の理想・予定のライフコース 及び男性が期待する女性のライフコース

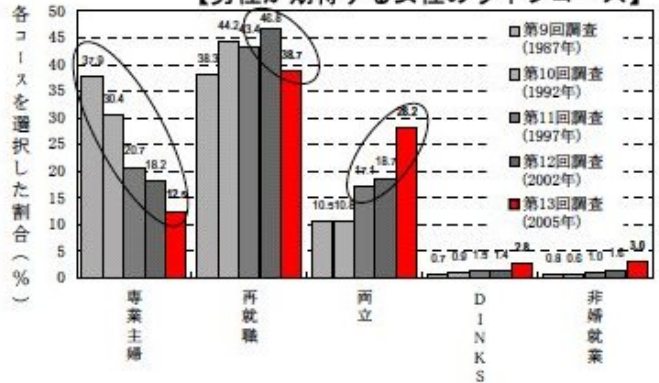
【女性の理想のライフコース】



【女性の予定のライフコース】



【男性が期待する女性のライフコース】



変わる希望の結婚像

仕事と育児の両立が男女ともに増加傾向

れています。

結婚に対する考え方の変化は、ライフスタイルも変えます。国立社会保障・人口問題研究所がまとめた「第13回出生動向基本調査 独身者調査の結果概要」から、希望の結婚像（どんな結婚を求めているのか）を見てみましょう。

「いずれ結婚するつもり」と答えた18歳～34歳の未婚者が結婚したいと思う年齢（平均希望結婚年齢）は、ほとんどの年齢層において上昇が続いていましたが、今回の調査ではおおむね上げ止まり、男性ではわずかに下がる傾向も見られました。

結婚相手との年齢

差についての希望を見ると、近年、男女ともに縮小傾向にあり、未婚者の間で年齢の近い相手（とりわけ同い年の相手）を希望する人が増えていましたが、今回調査では女性でこの変化傾向に一定の休止が見られ、一段落を示しています。

未婚の女性が理想とするライフコースと実際になりそうだと考えるライフコースでは、ともに両立コースが増加しました。一方で、再就職コースは減少しています。予定のライフコースでは、専業主婦コースの減少傾向と非婚就業継続コースの増加傾向が続いています。男性がパートナーとなる女性に期待するコースでも両立コースが3割近くに達し、専業主婦を望む人は13%と急速な減少傾向が続いています。

国立社会保障・人口問題研究所
「第13回出生動向基本調査 独身者調査の結果概要」